

1. 研究課題名  
世代間・世代内リスクトレードオフと持続可能性

2. 研究代表者氏名及び所属：  
竹内 憲司（神戸大学大学院経済学研究科）



3. 研究実施期間  
平成 19 年度～20 年度

#### 4. 研究の趣旨・概要

長期的な影響をもたらす地球環境リスクをどのような原則に基づいて管理していくかは、大きな社会的課題となっている。「持続可能な発展」は、そうした原則の有力な候補であるものの、具体的な政策レベルに適用できるようなコンセプトとはなっていない。

本研究は、コンジョイント分析や仮想評価法といった近年発展のめざましい表明選好アプローチ（\*）を応用した新たな評価手法を開発して、世代間・世代内にわたる地球環境リスク削減に対する人々の評価を分析し、長期的な地球環境政策を考える上での実践的な指針を提案するものである。

これによって、将来起こりうる被害や、途上国における被害など、時間的・空間的に遠い環境被害を、現在世代がどのように評価しているか、またそうした事象に対する評価を高めていくにはどのような施策が考えられるかが、明らかになる。

\* アンケート調査によって人々の選好を直接的に推し量る方法論のこと。

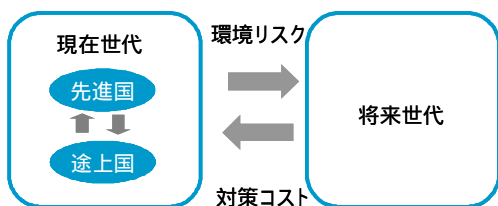
#### 5. 研究項目及び実施体制

- (1) リスク論に基づく持続可能な発展の経済理論（神戸大学）
- (2) 世代間・世代内のリスク解析と管理原則（産業技術総合研究所）
- (3) コンジョイント分析によるリスクの経済評価（高崎経済大学）

## 6. 研究のイメージ

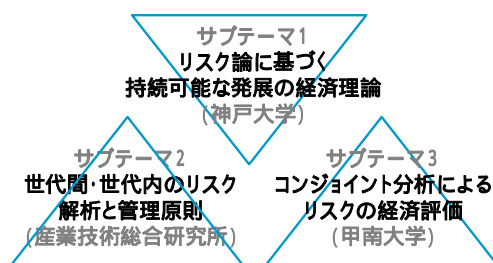
### RF-077 世代間・世代内リスクトレードオフと持続可能性

#### 研究の背景と目的



地球環境問題をめぐるリスクトレードオフの構造を、どう乗り越えるか  
持続可能な発展につながる地球環境リスクの管理原則を明らかにする

#### 研究体制



各サブテーマのメンバーが相互にアイデアを出し、分析を共同で進めるフラットな体制

#### 期待される研究成果

割引率関数の推定。将来起こりうる被害や、途上国における被害など、時間的・空間的に遠い環境被害を、現在世代がどのように評価しているかが明らかになる。

#### 地球環境行政への貢献

地球環境政策のコストやベネフィットを評価する際に選択すべき割引率や、費用便益分析を補完するための分配面を考慮した評価手法を提案する。